



「アジアサイエンスキャンプ2016」参加報告

(開催期間:平成28年8月21日~27日 開催場所:インド・バンガロール)



栃木県立佐野高等学校 2年3組 新井 隆太

1. アジアサイエンスキャンプの概要

「アジアサイエンスキャンプ2016(Asian Science Camp 2016)」は、平成28年8月21日から27日にかけて、インド南部の都市バンガロール(「インドのシリコンバレー」と称される、インド第3の巨大な経済都市)で開催された。アジアサイエンスキャンプは、ノーベル賞受賞者や世界のトップレベルの研究者による講演会や、講演者がリードするディスカッションセッションなどにより、科学の面白さを体験して生徒同士の交流を深める国際的な科学技術合宿である。10回目となったインド大会には、23の国や地域から、約220名の学生・生徒が参加した。日本からは、厳しい審査を経て選ばれた19名(高校生15名、高専生1名、大学生3名)が参加した。



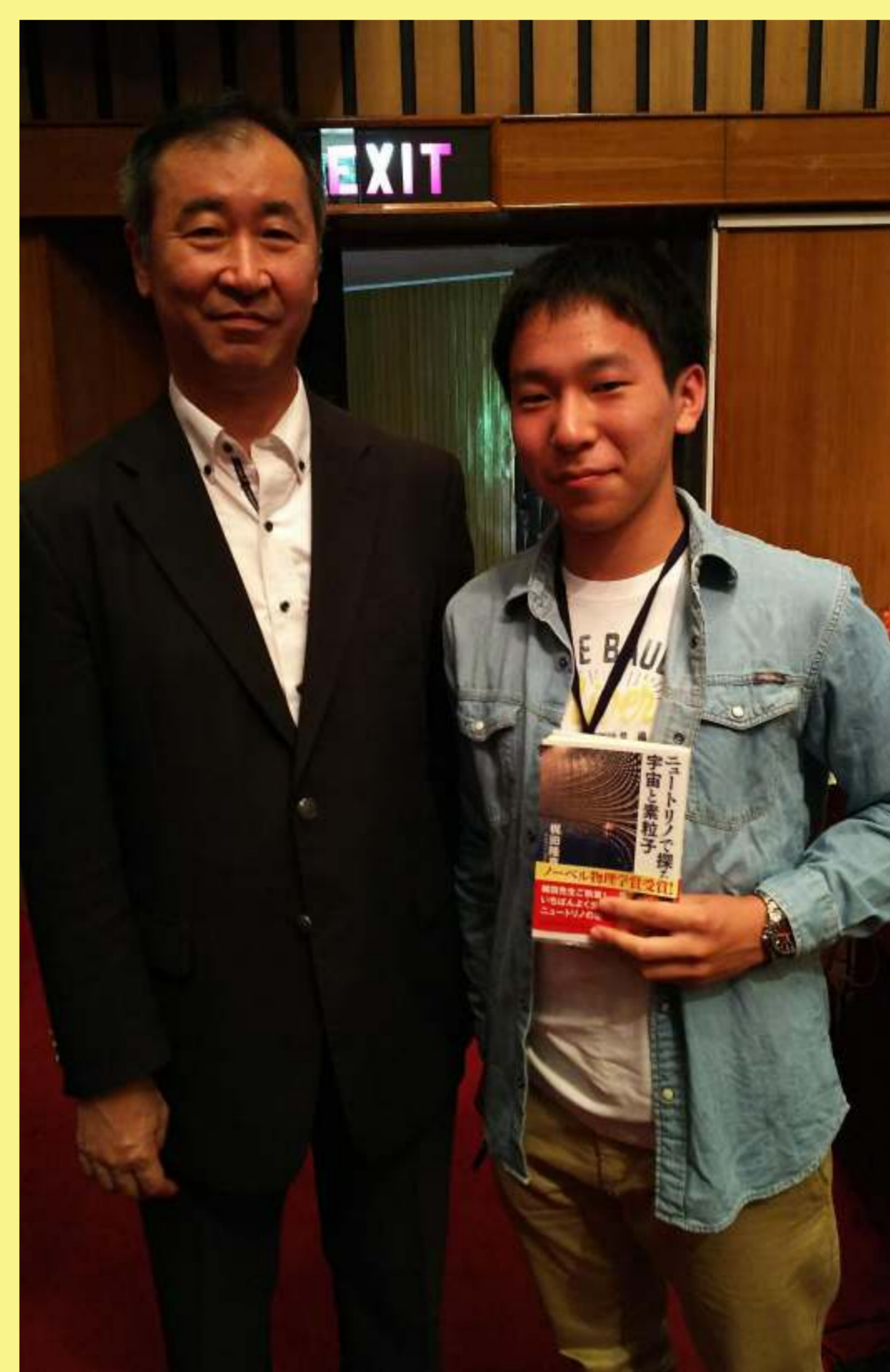
【Fig.1】 キャンプ参加者集合写真

2. 活動報告

Plenary Lectures

Plenary Lecturesは、数学、物理学、化学、生物学の著名な研究者6名による、90分ずつの講演会。どの講義においてもオーディエンスからの質問が絶えず、休憩時間までプレゼンターの元に出向いて質問している学生・生徒も多かった。

私が特に興味を持ったのは、2015年、ニュートリノ振動の発見によりノーベル物理学賞を受賞された梶田隆章氏(東京大学宇宙線研究所)の講演である。梶田氏は、「Discovery of Neutrino Oscillations(ニュートリノ振動の発見)」と題して、1956年に初めてニュートリノが観測されてから現在に至るまでの、日本及び世界のニュートリノ研究の歴史について、英語で講演された。スーパーカミオカンデ(岐阜県飛騨市神岡町にある東京大学のニュートリノ観測施設)の光電子増倍管を、梶田氏が自らゴムボートに乗って取り付けに行ったという話や、真面目で楽観的な性格であったから、研究をずっと続けることができたという話をお聞きして、**研究に対する熱心さやタフさが大切だ**ということを学んだ。講演終了後、私のお気に入りの本である梶田氏著作の『ニュートリノで探る宇宙と素粒子』にサインをいただき、写真を一緒に撮っていただいた(Fig.3)。



【Fig.3】 梶田隆章氏と

Sunday 21 st August	Monday 22 nd August	Tuesday 23 rd August	Wednesday 24 th August	Thursday 25 th August	Friday 26 th August	Saturday 27 th August
Registration at J.N. Tata Auditorium (2.30-4.00 PM)	Inauguration 9.30-10.30 AM Group Photo (10.30-11.00 AM) High Tea (11.00-11.30 AM)	Plenary 4 Prof. Takaaki Kajita (Nobel Laureate) (9.30-11.00 AM) Coffee/Tea (11.00-11.30 AM)	Plenary 5 Prof. Ajay Sood (Fellow of the Royal Society) (11.30 AM-1.00 PM) Lunch (1.00-2.00 PM)	Plenary 6 Prof. Raghavendra Gadagkar (President Indian National Science Academy) (9.30-11.00 AM) Coffee/Tea (11.00-11.30 AM)	Laboratory visits (9.30-11.00 AM)	Departure
High Tea (4.00-4.30 PM)	Plenary 1 Prof. C.N.R. Rao (Bharat Ratna) (11.30 AM-1.00 PM)	Plenary 2 Prof. Cédric Villani (Fields Medalist) (2.00-3.30 PM)	Excursion (7.00 AM-8.30 PM)	Camp 2 (4 classes) (11.30 AM-1.00 PM)	Meeting Team leaders with IC & Organizers (11.30 AM-1.00 PM) / Poster preparation and students interaction	
Orientation and briefing about the camp (4.30-6.30 PM)	Plenary 3 Prof. Georg Bednorz (Nobel Laureate) (3.30-5.00 PM)	Interactive session (2.00-3.30 PM)	Camp 3 (4 classes) (2.00-3.30 PM)	Dialogue 3 (3 classes) (4.00-5.00 PM)	Lunch (1.00-2.00 PM)	
Dinner (7.00-9.00 PM) at Hotels	Poster orientation (6.30-7.30 PM)	Cultural Activities (6.30-7.30 PM)	Camp 1 (4 classes) (3.30-5.00 PM)	High Tea (3.30-4.00 PM)	Poster Presentation (2.00-3.30 PM)	
	Dialogue 1 (3 classes) (5.30-6.30 PM)	Dialogue 2 (3 classes) (5.30-6.30 PM)	Dinner (7.30-9.00 PM) at Hotels	Closing Ceremony (4.00-5.30 PM)		

【Fig.2】 キャンプ全日程

Interactive Session

Interactive Sessionは、Plenary Lecturesの講師らによる議論と意見交換のためのセッション。Moderatorと呼ばれる司会者(Fig.4 一番左)が、この日講演を行った3人のプレゼンター(Fig.4 右から梶田隆章氏、CNR RAO氏、J. Georg Bednorz氏)にトピックを投げかけて、オーディエンスをも巻き込んだ議論を行った。「基礎研究の重要性」というトピックでは、施設や設備などが限られている中で、もしもの時に役に立つであろう基礎研究をどのように行ってゆくのかが焦点となった。「国境を超えた研究協力」というトピックでは、8か国による共同運営施設であるスーパーカミオカンデを例に、異なる文化や考え方の融合によって、新たな観点から思考することが可能になるという「コラボレーションの可能性」について、活発な議論が行われた。

また、オーストラリアからの参加者から提起された、「女性科学者は、男性科学者と比べると圧倒的に人数が少ない」というトピックに対しては、セッション参加者から素晴らしい問題提起だという称賛の声が上がった。



【Fig.4】 Interactive Sessionの様子

High Tea (Coffee Break)

High Teaは、サンドイッチなどの軽食やお菓子とともに紅茶を楽しむというイギリス発祥の習慣で、このキャンプでは1日あたり2回ほど催された。もともとインドはイギリスの植民地であったため(事実上)、このような習慣が残っているのだそうだ。私は、インドをはじめとするアジア各国の代表派遣団の皆さんと、お茶と会話を楽しんだ。特にタイ代表派遣団の皆さん(Fig.5)と仲良くなり、「ドラゴンボール」や「ドラえもん」などの日本のアニメの話をしたり、お互いの国の観光名所や見どころなどを紹介し合ったりした。タイなどの東南アジア地域でも日本のアニメは人気らしく、アニメで覚えたと思われる「じゃあな！」などの日本語のくだけた挨拶を積極的にしてくれた。



【Fig.5】 タイ代表派遣団の皆さんと